

体育、保健体育科
指導の重点

資質・能力の育成を目指し「主体的・対話的で深い学び」の具現に向けた授業改善を推進し、全ての児童生徒が運動に親しみ、自己の体力や技能の向上を実感できるようにする。

●「主体的・対話的で深い学び」の具現に向けた授業改善

【体育】	A 児童生徒が主体的に運動と向き合う工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ①単元や単位時間の導入で、児童生徒が課題の必然性を感じられるようにする。 ②単元の初めに「目標・課題」を児童生徒と共有し、一人一人の体力・技能に応じた課題や目標を設定し、達成感を得られるようにする。 ③児童生徒の実態に応じて、教材を選択し、練習方法や運動の場を用意する。 ④ACP の活用により、多種多様な運動と出会い、運動量を確保する。
	B 追究の過程
	<ul style="list-style-type: none"> ①協力とコミュニケーションを促す活動を重視する。 ②練習方法や場の設定を自ら選択できるようにする。 ③追究の視点を明確に示すようにする。(教師が準備したり児童生徒と作っていったりする。) ④学び方(追究の仕方)を示すようにする。
	C ICT の利活用
	<ul style="list-style-type: none"> ①動画を使った動きの理解・分析 タブレット端末や大型モニターを用いて、手本となる動きや自身の動きを見て、動きの分析や改善点を視覚的に理解できるようにする。 ②運動記録や振り返りをデジタルポートフォリオなどで蓄積し、学習の過程を見える化する。 ③児童生徒が自ら ICT 機器を必要な場面で有効に活用できるよう指導する。 ④運動時間や安全が確実に確保されるよう配慮する。
	D 学びの振り返り 指導と評価の一体化を図る(妥当性・信頼性の高い学習評価を行う)
	<ul style="list-style-type: none"> ①指導計画と評価のつながりを明確にし、学習指導要領に基づいた目標・内容を十分に理解する。 ②児童生徒が立てたり選択したりした目標に対して、追究の視点をもとに振り返るよう指導する。 ③児童生徒自身が自身の学びを実感できるような工夫をする。(視覚化、言語化)
【保健】	<ul style="list-style-type: none"> ・心身の健康の保持増進に関わる思考力・判断力・表現力等を高められるよう、習得した知識及び技能を活用する学習活動を進め、実習や実験、課題解決的な学習を取り入れるなど、多様な指導方法を工夫する。 ・自分の生活とつながる実感を持てるように指導内容を工夫する。
●体育、保健体育科の授業以外の体育的活動との関連を図った指導	
<ul style="list-style-type: none"> ・多様な運動への接続: 体育授業で経験した運動が、休み時間、学校外でも続けられるような形で指導。 ・地域や家庭との連携: 地域人材(スポーツ指導者等)の活用。睡眠・食事・運動のバランスのとれた生活習慣の啓発。 ・「チャレンジスポーツ in ぎふ」「ぎふっこダンスフェスティバル」の有効な活用。 	
●体育、保健体育科授業を支える大切な要素	
☆インクルーシブな体育の実現《誰もが参加できる授業の構築》	
<ul style="list-style-type: none"> ・障がいのある子供や外国にルーツを持つ子など、多様な背景を持つ児童生徒が安心して取り組めるような教材や指導法を工夫する。 ・運動に苦手意識をもつ児童生徒に配慮するため、学習の進度や方法に個別性をもたせ、安心して参加できる雰囲気づくりを重視する。 	
☆系統性のあるカリキュラムの作成《体育・保健体育の見方・考え方を働かせて運動に取り組む児童生徒の育成》	
☆安全で安心な学習環境の整備	

